

# 企業と消費者の立地と立地・生活コスト

小林広和

東京大学経済学研究科博士課程

平成26年4月21日

## 報告要旨

所得の異なる消費者2人と生産する財の品質の異なる企業2社による立地パターンを分析する。消費者、企業の空間的分布に対して、地代はもちろん、消費者の所得や企業の扱う財の品質・価格は重要な意味を持つといえる。現実には高額所得者が多く住む地域に、高品質財を販売する企業が出店するケースがみられる。どのようなメカニズムでこのような組み合わせが実現するのかを見る。

所得格差が大きく、企業の立地コストが地域間で差が少ないとき、消費者がタイプごとに分離して立地しやすい。そのような均衡では高額所得者は生活コストの高い地域に、低所得者は生活コストの低い地域に住むパターンのみが均衡となりうる。しかし、高額所得者が高品質財を必ず買うわけではなく、企業間の品質差によっては高額所得者が低品質財を購入し、低所得者が高品質財を購入する均衡もありうる。